

領事 糟谷 廉一（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

万県事件ニ関シ追悼会及同遊街示威

運動大会状況報告ノ件

革命軍ノ成功ニツレ国民党ノ排英運動ハ益々激烈トナリ万県事件ニ対スル示威運動ハ既ニ本年九月二十七日行ハレタルニ不拘又々国民党省党部、市党部、及各級党部ノ提唱ニテ盛大ナル追悼会並ニ遊街大会ヲ開催スヘク本月十二日來

湖南援助万案委員会ヲ組織シ十六日ニハ省教育会ニ於テ追悼会ヲ十七日ハ遊街示威運動ヲ挙行シ各界ニ対シ強制的ニ参加ヲ要求シタルヲ以テ今次ノ遊街ハ從来ニ比シ頗フル大規模ニ行ハレタリ

一、追悼会

例ニ依リ省教育会広場ニ祭壇ヲ設ケ十六日午後一時ヨリ追悼会ヲ挙行セルカ當日参列者ハ省政府主席代理總參謀長張翼鵬及各府長各機關ノ文武官吏並ニ国民党省党部、市党部、及各級党部員各公私團體員各学校教職員学生代表等参列ノ上鄭重嚴肅裡ニ挙行サレタル後一同ハ「打倒英國帝国主義」「不買英國貨」「不座英國船」等ヲ高唱

シ散会シタルカ参列団員ハ帰途隊伍ヲ組ミ前記標語ノ外更ニ「廢除中英間一切不平等條約」「抗争万県慘案」等ヲ高呼シツツ氣勢ヲ昂ケタリ

一、罷市

湖南援助万案委員会ハ弔意ヲ表スル為メ十七日全市ノ罷業実行ヲ宣言シタルヲ以テ當日ハ市中全部門ヲ鎖シ學校ハ休業シ小商人ノ外一切ノ取引中止セラレタリ

一、遊街

当日遊街參加ノ為メ省教育会ニ集合シタル團体ハ總指揮部、各府員ヲ初メ湖南省党部、長沙縣党部、市党部、各級党部、雪恥会、湖南省農民協會、近郊農協分会、總工會、人力車工会、各学校教職員学生等總計五百余團体ニシテ其數無慮二万余人ニ達セリ

午前八時各團体集合スルヤ遊街總指揮省党部員李惠迪ハ奏樂中ニ國旗党旗孫總理ノ写真並ニ万県事件ノ被難靈位ニ三拜ノ後遺嘱ヲ讀上ケ次テ援助万案委員会委員主席省党部員郭亮ハ英帝国主義ノ不法万県事件ノ横暴ニツキ激越ナル演説ヲ為シ次テ群衆ハ各種ノ標語ヲ高唱シ遊街ニ移レリ衛戍司令部ヨリ派遣ノ軍隊一排ヲ先頭ニ國旗党旗

之ニ次キ「湖南人民援助万案示威運動」ト書セル大旗ヲ押立テ省政府軍樂隊、長沙女子師範花園隊、万県被難同胞雲輶、省党部、各学校、各團体等ノ順序ニテ進行シ又各團体ハ團体旗及色紙製ノ四角三角ノ小旗ヲ所持シ途中各種ノ伝單ヲ散布シタルカ當方入手シタル分ニテモ實ニ三十七種ノ多キニ達シ如何ニ排英宣伝ニ努メタルカヲ察知シ得ヘシ遊街團ハ予想外ニ増加セル為メ予定ノ順路ヲ変更一部迂回延長シタル為メ順路ハ二里余ニ達シ一地点ヲ通過スルニ二時半ヲ過ル狀態ニシテ先頭ハ午後二時省教育会ニ歸着セルモ尚後方部隊ハ出発シ居ラサル有様ナリ同遊街團ノ標語ハ各團各種ニ定メラレタルモ「反對英國主義進攻革命運動」「反對英艦自由行駛內河」「撤退駐華英艦」「繼續對英經濟絕交」「抗爭万県慘案」

「援助万県慘案」「援助万案一律罷市」「取消中英間一切不平等條約」「打倒英國帝国主義」等ヲ高唱スル者多ク断髮女学生等ノ熱狂的態度及長沙労工会、近郊農協分會等力棍棒及天秤棒ヲ携帶セルハ特ニ目ヲ惹ケリ

一、英國領事ニ対スル抗議

湖南援助万案示威大会主席郭亮外七名ノ代表ハ當日英國

(3) 宣統帝ノ動靜

一二〇九 一月二十日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

旧宣統帝ヲ大連ニ連れ出ス陰謀ニ日本人関与

ノ旨外交總長談話ノ件

付記 宣統帝ノ動靜（大正十四年十二月調）
（一月二十一日接受）

一〇 雜件 一二〇九

本使發在天津總領事宛電報第六号

一四六五

二十日外交總長ハ最近宣統帝ヲ大連ニ連レ出シノ陰謀發覺シ非常ニ心配シ居レリ本件ハ国民党側ヲ初メ一般ノ神經ヲ刺激スルコト予想外ニシテ若シ右陰謀實現セハ排日ニ利用セラレ懸念ニ堪ヘスト述ヘ注意ヲ求メタリ右陰謀ニハ日本人モ關係アリト付ケ加ヘタルニ付特ニ嚴重御注意ヲ請フ
外務大臣ヘ転電セリ

(付記)

宣統帝ノ動靜

(大正十四年十二月調)

(一) 宣統帝ノ外遊問題
民国十三年十一月二十九日宣統帝在北京帝国公使館ニ避難セラレタル後間モナク同帝ヨリ芳沢公使ニ対シ日本ニ赴キ度旨申出アリタルカ當時段執政ニ於テ清室優待条件ノ修正乃至皇室財産ノ整理上引続キ滯京セラルル方帝ノ為メ有利ナリトノ意見ナリシニ付右ハ一時延期ニ決セラレタル處民国十四年一月一日帝ハ更ニ芳沢公使ヲ訪問シ速ニ外遊シ度キ旨ヲ告ケラレタルニ依リ同公使ハ帝ノ同意ヲ伝ヘタルニ執政ハ優待条件改正ハ自分ノ在職中ニ非サレハ未來永劫其機會ヲ失スヘク又其為ニハ帝ノ滯京ヲ

月二日同公使代理トシテ太田參事官段執政ヲ往訪シ優待条件商議未解決ノ儘ノ外遊ニ関スル執政ノ意見ヲ訊シタル處執政ハ帝ノ外遊切望ニ付テハ既ニ皇帝側ノ使臣ヨリ之ヲ仄知シタルカ左マテノ熱望ヲ阻止スルハ面白カラサルニ付キ同使臣ニ対シ帝ノ出遊ニ異議ナキコトヲ答へ置キタル旨述ヘタリ

(二) 宣統帝ノ天津遷居

然ルニ二月中旬ニ至リ漢字新聞京報ノ宣統帝三対スル論說激烈トナリ甚シキニ至リテハ宣統帝ノ誅戮並清室遣臣

ノ刑罰ヲ呼号スルニ及ヒ皇帝ニ於テハ益々不安ヲ感セラ

レタルモノノ如ク二月二十三日夜突如近侍ノ者一名ト共

ニ公使館ヲ出テ三等客車ニ乗シ天津ニ赴キ旅館タルヘキ

張園ノ準備整ハサリシ為日本旅館ニ入ラレ翌二十四日午前皇后及皇妃着津セラレタリ

芳沢公使ハ二十四日公使館員ヲ段執政及沈外交總長ノ許

ニ派シ委細右ノ経緯ヲ伝達セシムルト共ニ左ノ公表文ヲ

發表シタリ

当公使館ニ滯在中ナリシ前清宣統皇帝ハ二月二十三日夜突如天津ニ向ケ出發セラレタルニ依リ當館ハ翌二十四日

必要トスル次第ナルモ帝ノ希望モ理由アルコトナレハ右改正商議ニハ皇帝側、政府側双方ヨリ互ニ同郷ノ誼アル陳宝琛及ヒ梁鴻志ヲ代表トセハ迅速解決スヘシト述ヘタルニ付芳沢公使ハ帰館ノ上之ヲ帝ニ伝ヘタル處帝モ段ノ好意ニ対シ満足ヲ表セラレタルカ他方同公使ハ英、蘭両公使ニモ事情ヲ内話シ兩公使共芳沢公使ノ措置ニ対シ賛意ヲ表セリ然ルニ其後右優待条件ノ商議ハ予期ノ如ク摶タシキ進捗ヲ見サリシ處皇帝ノ外遊希望ハ益々切実トナリタル趣ヲ仄聞セル芳沢公使ハ一月三十一日皇帝ヲ病床ニ請シ談話ヲ交ヘタル處帝ハ右政府側トノ商議モ停頓ノ姿ニ在リ且時局モ不安定ニシテ段ノ運命モ何トモ保障付カサルニ鑑ミ此際一日モ速ニ退京シ日本行ノ素志ヲ貪キ度キ所存ナリト述ヘラレタルヲ以テ芳沢公使ハ一月中清室遺臣ノ代表ニ名本邦ニ渡航シ帝ノ日本行ニ關シ外務省側ニ何等申出アリタル事實ヲ述ヘ斯ル運動ハ反テ帝ニ対スル從來ノ日本政府ノ好意ヲ破壊スルノ惧アリ寧ロ歐米ニ外遊セラルルコト宜シカルヘク尤モ本件行懸上一応段執政ノ諒解ヲ得置クコト必要ナリ又何レニスルモ之カ実行ハ尚未相當時日経過後ヲ以テ可トスヘシト告ケ置キ二

不敢参考迄段執政及沈外交總長ニ通知セリ

因ニ皇帝カ離京ノ意ヲ有セラレタルコトハ事實ニシテ執政政府ニ於テモ之ヲ熟知シ何等干渉スルノ意ナカリシコトハ當館ニ於テモ亦了知セル所ナリシト雖其ノ實行ニハ自然多少ノ時日ヲ要スヘカリシニ予期ニ反シ急遽北京ヲ去ラレタルハ昨今一二ノ新聞紙カ不穩ノ記事ヲ掲載スルニ至リタル為カト想像セラル

尚天津張園ノ應急設備ハ二十四日竣成二十五日皇帝皇后共同所ニ引移ラレタリ

(三) 天津遷居後ノ外遊問題

皇帝側ノ日本渡來宿志遂行ノ決意ハ天津遷居後モ依然トシテ堅ク三月初メ頃船室留保等ノ準備ヲ進ムル一方在京遺臣ニ於テモ芳沢公使ニ対シ渡日援助ヲ懇請スルコト切ナルモノアリ他方在大連恭親王周囲ニ於テ帝ノ閨東州入ヲ画策シツツアリトノ報道モアリタルカ我方トシテハ予テ帝ノ境涯ニ対シ深甚ノ同情ヲ有スルコトハ勿論ノコト乍ラ帝ノ動靜ハ普通人ト異リ物議ヲ醸シ易ク支那新聞紙中帝ノ天津落ヲ以テ我方ノ手引ニ出テ行々ハ満蒙ヲ根拠トスル復辟運動ノ端緒ナルカ如ク宣伝スルモノアリ旁

々本邦渡来又ハ閏東州亡命ハ大局上甚ダ面白カラサルノ
ミナラス帝自身ノ将来ヨリ見ルモ執政政府ニ於テ種々好
意的考量ヲ加ヘタルニ顧ミ輕々シク帝ノ移居ヲ企図スル
ハ却テ帝自身ノ為ニ取ラサル所ナリトノ趣旨ヲ以テ累次
芳沢公使及在天津吉田總領事ニ訓令シ置キタル次第アリ

両官ニ於テ右含ヲ以テ帝側ノ注意ヲ喚起セル結果帝ニ於
テモ當分天津ニ滯在シ時期ヲ待ツニ決心セラレタルカ如
ク其後新邸建築ノ為メ天津日本居留地内官有地ヲ購入セ

ラレタル位ナルカ五月中康有為一派ニ於テ帝ノ閏東州内
移転ノ運動ヲナシタルヤノ事實アルモ右運動ハ帝自身ノ
意思ニハ何等關係ナキモノノ如ク目下ノ處帝トシテハ天
津ニ落着クコトニ決意シ居ル旨明言セラレタルコトアリ
其後引続キ同地ニ滯在中ナリ

一一〇 二月八日 幣原外務大臣ヨリ
在天津有田總領事宛（電報）
我ガ浪人ニヨル宣統帝ノ閏東州行計画ノ風説

アルニツキ同帝側ノ行動注意セラレタキ件

第九号 最近又々我浪人ノ計画セル宣統帝閏東州行ノ風説アリ北京

佃信夫ノ言動ニ関スル件

半公信

大正十四年十二月十四日

在天津

総領事 有田 八郎（印）

亞細亞局長 木村 銳市殿

佃信夫ノ行動ニ関スル件

十二月六日宣統帝ノ師傅ジョンストン來訪語ルトコロニ依
レハ約一ヶ月程前佃信夫ハ謝介石ノ通訳ニテ宣統帝ニ面会
シ何事ヲカ長時間ニ亘リテ面陳シタル上尚馮玉祥ヲシテ宣
統帝ニ対スル態度ヲ改メシムルタメ張家口ニ赴ク由ナリシ
カ最近再ヒ来津昨日（五日）宣統帝ニ面会シテ天津ニ在ル
コトノ危険ナルコト及官憲ニハ相談セス直ニ日本行ヲ断行
セラル様熱心勧誘セラレタルモ帝ハ目下ノ日本行ハ各方
面ニ誤解ヲ招ク虞アリ且ツ天津ニテハ領事ヲ初メ司令官モ
其保護ニツキ充分配慮セラレ居ルニ付頗ル安全ニ感シ居ル
次第ナリトテ佃ノ勧誘ニ応セラレサリシモ佃ハ明日十一時
再来ヲ約シテ辞去シタル旨ヲ告ケ近來羅振玉等カ帝ニ対シ
國民軍天津攻撃ノ場合ハ爆弾ヲ投下スヘシトカ國民軍天津

現政府筋ニテモ内々憂慮シ居ル趣ナル處本件我方針ハ既
ニ御承知ノ通リナルニ付此上共帝側ノ行動ニ注意セラレ度
尙ホ右為念駐屯軍司令官ヘモ内報シ置カレ度シ
北京へ転電アリ度シ

一一一 二月十日 在天津有田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

我ガ浪人ニヨル宣統帝ノ閏東州行計画説ニツ

キ回報ノ件

付記 大正十四年十二月十四日付在天津有田總領事ヨリ木村亞細亞局長宛書簡（半公信）

佃信夫ノ言動ニ関スル件

貴電第九号ニ關シ
第八号（極秘）
（二月十一日接受）

当地ニ於テハ御來示ノ如キ形跡ヲ認メサルモ不斷注意警戒

ヲ加ヘ居レリ尚十二月十四日付亞細亞局長半公信ニ關シソ
ノ後佃ハ皇帝ニ失望シ復辟ハ斷念セル旨ヲ語リ居ル由ナリ
在支公使ニ転電セリ

（付記）

大正十四年十二月十四日付在天津有田總領事ヨリ木村亞細亞
局長宛書簡

占領ノ場合ニハ帝ニ危害ヲ加フルノ危険十分アリトカノ理由ニ基キ頻リニ日本行ヲ勧メ（此事ハ十一月下旬本官之レヲ耳ニシタルニ付當時帝ニ面会シ右様ノ危険無シト信スルコト並ニ保護ニツキテハ充分ノ手配ヲ為スヘキコト及万一危険ナル事態生スルモ其時ニ及ンテ孰ルヘキ手段ハ幾何テモ有ル旨ヲ述ヘテ帝ニ安心セシメ置キタルコトアリ）居ル事情等ニ顧ミ佃ノ言動ニツキテハ頗ル疑無キニアラス若シ佃ニシテ誠心誠意帝ノ為メ其ノ日本行ヲ必要ト確信スルモノナルニ於テハ日本官憲ノ前ニ於テ帝ニ之レヲ勧誘シ得ナル理由ナシト思考スルニ付帝ノ希望ニモ有リ明朝十一時頃不時ニ立寄ラレタル風ニシテ帝カ佃ヲ引見シ居ル際本官之レニ立合フコト出来間敷ヤトノコトナリシヲ以テ之レヲ諾シ置キタリ同日十一時半頃張園ニ赴キタルニ佃ハ來訪セルモ帝ハ之レヲ引見スルコトヲ好マス目下陳宝琛鄭孝胥等ヲシテ代リテ接待セシメ居ル由ナリシカ本官往訪セルヲ以佃ヲ招キ入レシメタル處佃ハ帝カ同人ノ進言ヲ喜ハス兎角他人ヲ介入セシメムトスル態度有ルヲ非難シ果シテ如此クシハ敢テ進言スルヲ欲セストテ辭去シタルカ當時佃ハ本官ニ対シ自分ハ支那ノ時局ヲ救ヒ東洋平和ノ為メニハ支那ニ

一〇 雜件 一一一 一一三

一四七〇

帝政ヲ復スルニ非レハ不可ナリトノ意見ニテソレカ為メニ
ハ宣統帝ヲシテ一方更ニ修養ヲ積マシムルト同時ニ他方時
期ヲ待タシムル必要アリ而シテ復辟ノ際ニハ何レ日英支ノ
連合ヲ必要トスルニ付帝カ英國ニ留学セラルコト必要ナ
リ故ニ此際日本ニ至リ更ニ英國ニ留学セラルコトヲ御勸
メスル積ニテ日本官憲ニハ固ヨリ帝ヲ説得シタル上ニテ御
話シスル積ナリシト語リ居リタリ

佃ハ目下帝ノ周囲ニ在ル羅振玉謝介石万繩栻等ト連絡ヲ執
リ居ル模様ナルニ付其行動ハ警察ヲシテ注意セシメ居ルモ
其後別ニ変リタル模様ナシ

写送付先 在北京堀參事官

一一二 五月七日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

復辟問題ニ閔スル康有為談話報告ノ件

第一二一號（極秘）
内田伯五月六日康有為ト會見シタル處康ハ終始清朝ニ対ス
（欄外記入）キコト及皇帝ノ回宮（北京ノ宮殿ニ帰ルコト）ヲ希望スル
旨ヲ伝ヘ来レルコトアリ又是等ノ方面ノ人士カ皇帝ニ謁見シ
成ノ旨同人宛申來レル手紙ヲ示シ張作霖及張宗昌ハ宣統帝
ニ対シ夫々十万弗ヲ贈リ吳モ亦二万弗ヲ寄進シタル程ニテ

一一二 五月七日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

復辟問題ニ閔スル康有為談話報告ノ件

第一二二號（極秘）

内田伯五月六日康有為ト會見シタル處康ハ終始清朝ニ対ス
（欄外記入）ル思慕ノ念ヲ語リタル後人ヲ遠サケ最近吳佩孚ヨリ復辟贊
成ノ旨同人宛申來レル手紙ヲ示シ張作霖及張宗昌ハ宣統帝
ニ対シ夫々十万弗ヲ贈リ吳モ亦二万弗ヲ寄進シタル程ニテ

各地領袖間ニ清室再興ニ閔スル諒解ナリ居レリト語レル趣
ナリ

在支公使、天津へ転電シ奉天、漢口、濟南へ暗送セリ
(欄外記入) 康等ノ常套語也

一一三 五月八日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

奉天、直隸両派代表等ノ宣統帝ニ獻金並ビニ
謁見ニ閔シ情報ノ件

第一二八號（極秘）

上海発往電第一二一號ニ閔シ

（五月九日接受）

康有為力復（辟）ノ為運動シ居ルコト及張作霖カ十万弗獻
金ノコトハ昨年八月十五日付垂細亞局長宛報告ノ通ナリ然
ルニ本年四月以降張學良、張宗昌、李景林カ皇帝ニ謁見シ

タル外奉天方面トノ交通頻繁ニシテ吳佩孚代表モ二回迄謁
見シタル事實有ルニ付政界ノ現状ニ鑑ミ本官ニ於テモ警戒
ノ必要ヲ感シ談話ノ内容ニ付皇帝近侍ノ者ニ就キ問ヒタル
コト有ルモ其ノ際ハ單ニ敬意ヲ表シニ來レル迄ナルコト及
右訪問ハ決シテ皇帝ヨリ求メラレタルモノニ非ストノコト
ナリシニ付暫ク其ノ儘トシ引続キ注意ノ処前記上海來電ニ

ト

接シタルニ付鄭孝胥、劉驥業等ニ就キ更ニ取調ヘタルニ吳
佩孚、張作霖方面ヨリ入京ノ上ハ優待条件ノ回復ヲ計ルヘ

キコト及皇帝ノ回宮（北京ノ宮殿ニ帰ルコト）ヲ希望スル
旨ヲ伝ヘ来レルコトアリ又是等ノ方面ノ人士カ皇帝ニ謁見シ
セル際ニハ民国ノ不可ナルコトヲ開陳シタルコト有ルモ復
辟ノ意味ヲ表示シタルコト無シ又回宮ノ件並ニ軍閥ノ所申
ニハ信ヲ措キ難キヲ以テ鄭孝胥、陳寶琛等協議ノ結果當分
天津ヲ離レサルコトニ決定シ居リ又吳佩孚及張宗昌ヨリ獻
金シタルコト無シトノコトナリ

北京へ転電シ奉天、上海、漢口、濟南へ暗送セリ

一一四 六月三日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

復辟問題ニ閔シ鄭孝胥ト意見交換ノ件

機密第二六五號
(六月十一日接受)

大正十五年六月三日

在天津

總領事 有田 八郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

復辟問題ニ閔シ鄭孝胥ト会談ノ件

一〇 雜件 一二四

「近來帝ニ謁見スル師長旅長級ノ者ハ明カニ之レヲ口ニセ
サルモ何レモ一樣ニ帝ノ復位ヲ希望スルカ如キ口吻ヲ洩シ

ト前置シタル上

スル意見ヲ承知シ度希望スル次第ナルカ差支無キ程度ニ於
テ貴大人ノ意見ヲ承ルコトヲ得ヘキヤ」ト述ヘタルニ鄭孝
胥ハ本官ノ意ヲ諒トシ皇帝並ニ近侍ノ者ノ心持ヲ述フヘシ

居ル次第ナルカ帝モ亦元來聰明ナル方ナレハ勿論之レヲ口ニセラルカ如キコトナキモ御内心ヲ抨察スレハ時機到来ノ際ニハ再ヒ復位ヲ辞セサル御心持ナルヘシ近侍ノ者亦其意無キニアラス理想ヲ云ヘハ有力ナル軍閥出テテ帝ヲ後援スル曉ニハ復位ヲ断行スル亦不可ナラサルヘシ若シ右ノ如キ具体問題起リタル際ハ予メ貴總領事ニ内告シテ其意見ヲ求ムヘシ云々」ト語レリ

元來帝近侍ノ者ノ中復辟ヲ希望シ居ルハ御承知ノ通り升允羅振玉等ニシテ陳寶琛、鄭孝胥等ハ必スシモ之レト其説ヲ同ウシ居ラサルモノト認メラレ居リタルニ鄭等ノ意見ニシテ右ノ如シトセハ支那事局ノ変転ニ伴ヒ帝ヲ利用セムトル軍閥ノ現ハレタル場合帝並ニ帝周囲ノ者ノ之レニ誤ラルコト無キヤハ甚タ懸念ニ堪ヘサルトコロニシテ右ハ東洋大局ノ上ニ於テ不利ナルノミナラス帝御自身ノ幸福ノ上ヨリ考察スルモ極メテ不利益ナルコトト信シタルヲ以テ本官ハ「只今帝並ニ近侍ノ者ノ感想トシテ述ヘラレタルトコロハ直接關係者ノ心理トシテハ誠ニ無理ナラヌトコロナルモ第三者タル自分ノ所見ハ自ラ之レト異ルモノ有リ先程ノ御話中ニ具体的問題ノ起リタル際ニハ自分ノ意見ヲ問フヘシ

トノコトナリシカ具体的問題ノ起ルニ先チ今日自分ノ所見ヲ吐露シテ参考ニ供スルヲ得ヘキヤ抑モ世界ノ歴史ヲ通観スルニ近年君主制ヨリ君主國ニ改変セラレタルノ例ハ殆ント之レナシ彼ノ仏國ノ如キ革命後一時帝制ニ復帰シタル例無キニアラサルモ之レトテ少時ニシテ再ヒ共和トナレリ此一事ハ世界ノ大勢トシテ注意ニ価スルトコロナリ次ニ支那軍閥ノ起伏ハ最近殊ニ甚シク支那統一ノ前途甚タ遼遠タルノ感ナキニアラサル次第ナルカ坂リニ一時或ハ軍閥ノ手ニヨリテ統一ノ事成リタリトスルモノ其ノ軍閥ノ勢力カ百年二百年ニ亘リテ永続スルモノトハ到底信スルコト能ハス軍閥ニヨル統一ハ永クトモ十年二十年ヲ出テサルヘキヲ以テ如此軍閥ノ勢力ヲ頼リトスル計画ハ甚タ危険ナリ宣統帝カ第一革命ニ際シ帝位ヲ去ラサルヲ得サリシコトハ誠ニ遺憾ノ次第ニシテ同情ニ堪ヘサルトコロナルモ翻テ考フルニ當時帝並ニ御一族ノ生命並ニ身体ニ何等ノ御異変無カリシコトハ古来革命ノ腥キ歴史ニ顧ミ誠ニ不幸中ノ大幸ト云ハサルヘカラサルトコロナリ然ルニ今若シ盛衰常ナラサル軍閥ヲ賴ミテ復位セラルルカ如キコト有リ而カモ二十年三

タル老人ノミニシテ誠意ハ余リ有ルモ時勢ヲ洞察シ真ニ帝ノ利益ヲ計ルノ英断ニ出テ得ル者無ク例ヘハ清室ノ財産問題ニシテモ益々困難ナル羽目ニ陥ルニ非ラサルヤト懸念シ居レリ
本信写送付先 在支公使

編註 『日本外交文書大正十五年第二冊上巻』一二九文書参照

一一五 六月四日 在天津有田總領事ヨリ
木村亞細亞局長宛

清室財産問題ニツキ私見開陳ノ件

半公信

最近帝ニ謁見スル師長旅長等ニシテ言外ニ帝ノ復位ヲ希望スル者有リ云々トノコトナリシモ元來帝ニ謁見スル程ノ者ハ何レモ帝ニ同情スル者ナルカ故ニ之等ノ者カ右ノ如キ言ヲ為スコトハ怪ムニ足ラス只右少數者ノ言フトコロヲ以テ一般ヲ推セムトセハ誤算ヲ招クノ虞有リ貴見如何右自分ノ意見ハ機会にラハ陳太傅ニモ伝へ置カレタシ云々」ト述ヘタルニ鄭ハヨク本官ノ所説ヲ諒解シ自分モ全然同感ナル旨述ヘ居リタリ尚本官ノ感想ニ依レハ帝周囲ノ者ニハ陳寶琛鄭孝胥ノ如キ誠忠ノ士ニ乏シカラサルモ何レモ時世ニ後レ

テハ帝並ニ一族力財政上悲慘ナル状態ニ陥ルコトハ想像セラレサルニアラサルヲ以テ過般來陳宝琛及鄭孝胥ニ対シ左記要領ノ如キ私見ヲ参考トシテ開陳シタルコト有之候ニ付御承知置相成度候

敬具

左記

「帝ニ同情有ル政府ノ存立中優待条件ヲ改訂シ財産問題ヲ解決セムトスルハ極メテ適當ナル措置ナルモ支那ノ状勢ヲ案スルニ何時帝ニ同情無キ政府ノ出現ヲ見ルヤモ知レス而モ右ノ如キ傾向ハ年々多キヲ致ス次第ナルヲ以テ仮令此際優待条件ヲ有利ニ改訂シ得ルトスルモ明日ニモ同情無キ政府出現スレハ其日ヨリ優待条件ノ取消若ハ变更有ルヲ覺悟セサルヘカラスシテ其永続ハ到底望ミ得ヘカラス故ニ年金ノ如キ将来ニ亘ル方法ハ一切之レヲ避ケ帝ニ同情有ル政府ノ存続中兎ニ角百万ニテモ百五十万ニテモ一時ニ之レヲ貰ヒ受クルノ方法ヲ講シ若シ纏リタル金額ヲ貰ヒ受ケ得トスレハ其代リトシテ宝物ニテモ土地ニテモ一切之レヲ手離スモ可ナリ而シテ右百万若ハ百五十万ハ之ヲ外国銀行ニ預金シ帝並ニ御一族ノ小数者カ其利子ヲ以テ外国又ハ外国租界

写送付先 北京堀參事官
大正十五年六月四日

有田 八郎

木村亞細亜局長

一一六 九月十四日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

復辟問題ニ關シ康有為トノ会談要領報告ノ件
(九月二十二日接受)

大正十五年九月十四日

在天津
総領事 有田 八郎 (印)
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
康有為トノ会談要領報告ノ件
康有為ハ九月七日本官ヲ來訪シ宣統皇帝ニ對スル日本側ノ厚意ヲ謝シ時局ニ對スル本官ノ意見ヲ求メタルニ付此ノ機会ニ復辟ニ関スル同氏ノ真意ヲ確ムルト同時ニ意見ノ交換ヲ為シ置クコト適當ナリト信シ九月十日改メテ官邸ニ招待シ食事ノ前後二時間余ニ亘り会談シタリ康氏談話要領左ノ如シ
「支那ノ現状ハ混亂ニ混亂ヲ重ネ民国以来寧日無ク廣東ノ如キハ二百数十種ノ悪税ヲ課シ十數年後迄ノ税金ヲ搾取シ居ルカ如キ有様ニシテ人民怨嗟ノ声ハ殊ニ甚シキモノ有リ廣東ニアラストモ支那ノ各地ニ於テハ先ソ同様ノ有様ニシテ足一度内地ニ到レハ人民ハ殆ント凡テ清室ヲ思慕シ居レリ支那ハ共和トナレリト云フモ吾人ハ之レヲ認メス人民力袁世凱ノ帝政ニ反対シタルハ帝制ニ反対セルニアラスシテ袁ノ帝タルニ反対シタル迄ナリ革命以來支那ニ動乱絶エサルハ選挙ニヨリテ主権者ノ地位ニ立チ得ル為メ人皆其地位

等安全ナル地域ニ生活セラルレハ永遠ニ平和ノ生ヲ樂ミ得ラルヘシ百万百五十万ハ帝生活ノ基金トシテハ零細ニ過クト云フハ感情上誠ニ当然ノ次第ナルモ如此感情ハ結局帝ノ前途ヲ誤ルモノニシテ此際ハ至急解決ト英断トヲ必要トスヘク切詰メタル生活ナレハ右基金ノ利子ニテ不充分ナラサルヘシ只百万百五十万ト云フモ現在ノ支那政府ヨリ一時ニ之レヲ支出セシムルコトハ財政上不可能ナリト云フ者有ラムモ支那政府ノ承諾セル帝優待ノ資金ト云フコトナレハ宝物ナリ關稅ナリノ担保ニテ支那政府ニ資金ヲ供給スル者無キヲ憂ヒサルヘシ云々」

木村亞細亜局長
一一六 九月十四日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

復辟問題ニ關シ康有為トノ会談要領報告ノ件
(九月二十二日接受)

大正十五年九月十四日

有田 八郎

対ハ廣東ニ於テモ予想外ニ甚シケレハ彼ニシテ武漢ニ一敗
スレハ再ヒ立ツ能ハサルヘク右ノ如キ時代ニ立至レハ北方
軍閥ハ自然ニ宣統帝ヲ推戴スルニ一致スルハ疑無キトコロ
ト信ス此時ハ即チ復辟ノ時期ナリ宣統帝カ身ヲ以テ逃レタ
ル所ハ日本公使館ニシテ更ニ現ニ保護ヲ受ケ居ルハ天津日
本租界ナルコトハ何事ヲ語ルモノナリヤト云フニ東洋人同
士ノ親ミニ基クモノト云ハサルヘカラサルカ此日本ノ保護
ヲ受ケ居ル宣統帝カ他日復位スルトセハ日支両国ノ關係如
何ニ有ルヘキヤハ言フヲ俟タサルトコロナルヘク之ヲ思フ
トキ自分ハ非常ナル愉快ヲ感スルモノナリ上述ノ自分ノ所
懷ハ外務大臣、北京公使其他日本要路ノ方々ニハ是非伝達
ヲ希望スルトコロナリ云々」

前記康氏ノ所説ハ本官ノ陳述スル私見（六月三日付機密第
二六五号報告鄭孝胥氏ニ對シテ為シタルト同様ノモノ）ニ
對シ反駁的ニ其所懷ヲ述ヘタルモノナルカ康氏ハ本官ノ力
説シタル「宣統帝将来ノ幸福ノ為メニハ復辟ハ極メテ危險
ニシテ一時成功スルコト有リトスルモ誰カ其永続ヲ保障シ
得ンヤ清室ノ旧臣ハ宜シク帝ノ永久ノ平和幸福ノ為メニ努
力スヘキモノナルヘシ」トノ点ニツキテハ態ト避ケテ言及

金銀行ノ内報ニ依レハ一時三十余万弗ノ預金有リシモ漸次
ニ引出シ九月上旬ニハ僅ニ三万余弗ヲ余スノミトノコトナ
ルカ皇帝カ我租界ニ居住シ居ラルル關係上若シ生活ニ支障
ヲ生スルカ如キ狀態ニ立至ルトスレハ我方トシテ面倒ナル
立場ニ立至ル虞有ルヤニ存セラレタルニ付過日來陳寶琛、
郎貝勒未亡人（皇后ノ祖母ニ当ル）ニ面談シ十月四日ニハ
鄭孝胥ニ面談シタルカ鄭トノ談話ノ模様御参考迄ニ左ニ報
告ス

本官ヨリ先ツ宣統皇帝ノ御手許ハ最近不如意ト承ハル且ツ
清室内財政上ノ主任又ハ責任者トシテ諸般ノ經理ヲ為ス者
無キ趣ナルカ如何ニト尋ネタルニ鄭ハ

自分ハ清室ノ財政狀態ニツキ多少承知シ居レリ昨年ハ清
室公債ノ利子三十余万弗優待費ノ一部四万弗等合計四十
万弗位ノ收入有リ此外張作霖ヨリモ十万弗ノ献金有リシ
モ北京ニ於ケル事務所費ニ約十七万弗ヲ要シタル外當地
ニ於テ十二三万弗ノ費用ヲ要シタル為メ差シタル残額無
キ筈ナルニ本年ニ入りテハ何等ノ収入無ク支出ノ一方ナ
ル為メ現在ニ於テハ余裕何程モ無キ狀態ニ在リ故ニ皇帝
ハ出来得ル限り費用ヲ節スル外ナシト氣付カレ月額一千

セス单ニ支那ハ帝制ナラサルヘカラス又近キ将来ニ於テ其
時期来ルモノト信ストノミ述ヘ居リタリ
尚十一日ノ当地大公報（國聞通信胡霖ノ經營セルモノ）ハ
別紙一号訳文ノ如キ論説ヲ掲ケ又同日ノ漢文タイムス（黎
元洪派）ハ別紙二号訳文ノ如キ記事ヲ掲ケタリ御参考迄
本信写送付先 在支公使、上海總領事

編註 別紙一、二号省略

一 二 七 十月四日 在天津有田總領事ヨリ
木村亞細亞局長宛

清室財產狀態ニ關スル鄭孝胥ノ談話ニツキ報
告ノ件

機密第五〇六号 大正十五年十月四日
(十月十四日接受)

在天津
亞細亞局長 木村 銳市殿
總領事 有田 八郎 (印)

外務省
亞細亞局長 木村 銳市殿
總領事 有田 八郎 (印)

清室財產狀態ニ關スル件
清室財政不如意ノ模様ニツキテハ數次報告ノ通リニシテ正

モノナルヘキヤヲ尋ネタルニ鄭ハ

御自身ニテ御気付ニナリ御実行ナサレタル様申居ラル
モ榮源氏（皇后ノ父）アタリノ献策ニ出テタルモノナル
ヘシ

ト答ヘタリ張園ニハ陳寶琛、鄭孝胥等毎日出仕シ居ルモ單
ニ師傅トシテ経書其他ノ講義ヲ為スニ止リ日常ノ財政事項
等ニハ全然闕与セサル模様（優待条件ノ改訂トカ宝物ノ処
分トカ云フ問題ニハ多少奔走シ居ルカ如キモ）ナルヲ以テ
之等ノ事ハ皇帝御自身ニテ主トシテ弁理セラレサルヲ得サ
ル状況ニ在ルモノノ如ク自然平生側近ニ在ル榮源氏等カ何
カト献策シ居ルモノト見ラルトコロ右榮源氏ハ陳寶琛ノ
如キサヘ顔ヲ渋メ居リ鄭孝胥ハ妥当ヲ欠キ小供ノ如キ人ナ
リト評シ居リタル程ノ人物ナレハ皇帝ノ周囲ニ在リテ財政
上ノ助言ヲ為ス唯一ノ人間トシテハ適當ナラサルコト言フ
迄モ無ク清室財政ノ弁理ニツキテハ甚々寒心スヘキモノ有
リト思考セラル

尚序ニ鄭孝胥ニ対シ清室財政将来ノ意見ヲ求メタルニ左ノ

通リ語リタリ

北京市内ニ清室所有ノ家屋若干有ルノ外京兆区内ニ清室所

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

宣統帝ノ身上ニ閑スル件

義和團賠償金英國政府委員会ノ關係ニテ先般來帰國中ノ英
国人 R·Fleming Johnston（宣統帝ノ教師）本月二十五
日吉田參事官ヲ來訪内話ノ要領左ノ通り

宣統帝醇親王ノ邸ニ移ルヤ馮玉祥ハ其ノ部下ノ兵ヲ以テ親

王ノ邸ヲ警戒シ容易二人ノ出入ヲ許サス自分モ同帝ニ伺候

スルコトヲ得サリシ處張作霖北京ニ來ルヤ馮玉祥ノ護衛兵

ヲ退去セシメ從テ自分モ同邸ニ伺候スルヲ得ルニ至リタル

カ張作霖ヨリ夜分密ニ來訪スル様自分ニ求メ來リタルニ付

自分ハ一夜密ニ張作霖ヲ訪問シタリ張作霖ハ宣統帝ノ境遇

ニ同情シ成ルヘク馮玉祥「クーデター」前ノ旧態ニ回復ス

ル様努ムヘキカ尚列國公使ヲモ往訪シテ列國公使ヨリ同帝

ノ身上ニ付強ク支那政府ニ申入ル様尽力スヘキコトヲ

分ニ勧メタリ仍リテ自分ハ首席公使タル和蘭公使及日英兩

公使ヲ往訪シテ懇願スル處アリ三国公使ヨリ夫々外交部ニ

トスルノ報ヲ耳ニシタル張作霖ハ其ノ手兵少キヲ以テ払暁

有ノ山林田畠等若干有リ最近ノ政府ハ清室ニ差シテ反対ナ
ラサル為之等ヲ民間ニ払下ケタル場合ハ其代価ノ幾分（精
確ナル割合失念ス）ヲ清室ニ交付スルコトト相成リ居レハ
此払下ニシテ都合ヨク取運ヘハ之タケニテモ百万弗位トナ
ルヘク又万一此方カ成功セストセハ皇帝ノ天津ニ持來ラレ
居ル書画骨董類ヲ処分スルコトモ出来ウヘシ若シ此骨董類
ヲ整理シ時機ヲ見テ売リ払ハハ之亦百万弗位ハ得ラルヘキ
見込ナルニ付之等ニヨリテ得タル額ヲ外国銀行ニテモ預ケ
其利子ヲ使用スルコトトセハ差シタル困難モ無カルヘキ積
ナリ云々

写送付先 在支公使

一一一八 十月二十七日 在英國松井大使ヨリ

幣原外務大臣宛

宣統帝ノ身上ニ閑スル英人ジョン斯顿ノ内

話報告ノ件

機密公第六一九号（極秘）

（十一月十八日接受）

大正十五年十月二十七日

在英國

特命全權大使男爵 松井 慶四郎（印）

俄ニ汽車ヲ仕立テ天津ニ遁逃セリ此ノ報ヲ耳ニシタル自
分ハ皇帝ノ身辺ニ危険ノ迫レルヲ考へ直ニ醇親王ノ邸ニ伺
候シ帝ニ説ク處アリ公使館区域ニ脱出ヲ図リ帝ハ同族往訪
ト号シテ出発シ自分ハ帝ノ自働車ニ陪乗シ陳太傅ハ後車ニ
乗リ群集セル馮玉祥ノ兵ノ間ヲ通過シ安キ心モ無カリシモ
迂回シテ哈達門ニ至リ始メテ運転手ニ公使館区域ニ入ルヘ
キコトヲ命シ独逸病院ニ至リ帝ノ一時ノ護衛ヲ独逸医師ニ
モ託シ帝ノ身ヲ託スルハ日本公使館ニ若クハ無シト考へ帝
モ同一意見ナリシニ付芳沢公使ヲ自分往訪シタルモ午後一
時頃ニテ同公使他ニ午餐ノ為外出中ニテ面会出来ス仍リテ
直ニ和蘭公使館ニ走リタルモ之亦同様仍リテ英國公使ヲ往
訪シ其ノ来意ヲ述ヘ英國公使ニシテ同帝ヲ保護スル意向ア
ラハ未タ日本公使ニ面会セサルニ付英國公使ニ其ノ機会ア
リト述ヘタルニ同公使ハ余ハ事務ニ忙殺セラレ居レリ此ノ
上事件ヲ増スヲ欲セストテ何等ノ「インテレスト」ヲ示サ
ス（尤モ貴下（吉田）云ハル通「オルストン」（Sir Bei-
Iby Francis Alston）在任中自分ハ帝ノ身辺ノ万ーフ慮
リ危險ノ際英國公使館ニ伴ヒ來ルコトニ付承諾ヲ求メタル
ニ「オールストン」ハ英國政府カ何等「イントリーグ」ヲ

為シ居ルモノト日米其ノ他ヨリ疑ハルヲ恐レ英國公使館内ニテ帝カ「ジョнстン」ノ賓客トナリ保護ハ外交団全體ニテ為スコトトセハ可ナラントテ兎ニ角必要ノ場合宣統事ニ付テハ大正十年北京ヨリ詳細報告済

右様ノ次第ニテ帝ハ日本公使館内ニ入りタルカ帝ハ日本ニ赴カンコトヲ希望シタルニ付自分ハ帝ニ告ケス密ニ「エリオット」大使ニ電報シテ宣統帝ノ日本來遊ニ對スル日本政府ノ意向問合方ヲ依頼シタルニ幣原大臣ハ同大使ニ對シ同帝ノ來遊ヲ拒絶セラレサリシモ同帝カ日本又ハ関東州ニ赴カルコトハ日本政府ニ取ツテ大ニ「エンバラッシング」ナリト自分ニ伝フル様語ラレタル趣ニテ同大使ヨリ右内報ニ接シタルカ宣統帝ハ勿論此ノ事ヲ承知シ居ラレサリシノミナラス其ノ日本來遊カ日本政府ニ何等差支ナキモノト予断シテ先ツ学生ノ姿ニテ三等汽車ニ乗リ羅振玉ニ伴ハレテ天津ニ赴ケリ途中馮玉祥ノ兵卒ニ何人ナルカヲ尋ネラレタルニ帝ハ清華学校学生ナリト答ヘタリ芳沢公使ハ皇帝自ラ好ンテ天津ニ赴クニ対シ異議ナク同公使ハ直ニ在天津總領事ニ牒シテ出迎ヲ依頼シ帝ハ其ノ出迎ヲ受ケ日本租界ニ入

レリ自分ハ宣統帝カ自分ノ意見ヲ用ヒ斯天津ニ赴カレタル居レリ帝ノ室ニハ直通電鈴アリ危急ノ場合帝一度電鈴ヲ押セハ日本軍隊来リテ其ノ邸ヲ保護スルコトニナリ居レリ又必要ニ応シ直ニ日本砲艦ニ赴クノ便宜講セラレ居レリ尚關係ヲ持続シ居レリ

天津ニテハ日本官憲ノ保護懇切周到ニシテ宣統帝ハ満足シ居レリ帝ノ室ニハ直通電鈴アリ危急ノ場合帝一度電鈴ヲ押セハ日本軍隊来リテ其ノ邸ヲ保護スルコトニナリ居レリ又自分ノ起案ニ係ル右書翰及宣統帝自署ノ写真ヲ携帶シ英国外務省ニ之ヲ提出シテ英國皇帝ヘノ捧呈方ヲ依頼シ置ケリ當時帝ハ進物ヲ英國皇帝ニ獻上シ度シトノ意アリシモ種々ノ誤解ヲ恐レ自分ハ帝ニ説キテ之ヲ止メタリ

日本政府ハ愈々宣統帝ニシテ日本來遊ヲ希望セラル場合如何ナル態度ニ出テラルヘキヤ宣統帝側ヨリ希望申出アリタル場合ノ挨拶方ニ付日本政府ニ於テ御考量置相成度シ帝カ東京ニ在住セラルコトハ諸般ノ關係上好マシカラス自分ハ寧ロ政治ノ中心ヲ離レタル京都奈良地方ニ永住セラルヘキコト然ルヘシト存ス日本政府ニシテ宣統帝ノ日本來遊

ニ異議ナキ場合自分一個ノ考ヘニテハ帝カ政治上ノ陰謀ニ何等關係セサルヘキコトヲ誓言スルノ条件ヲ帝国政府ヨリ提出セラルレハ可ナリト存ス

宣統帝ノ身ヲ託スルニ適當ナルハ先ツ日英両國ノミナルニ付宣統帝ニ於テハ日本政府ノ拒絶アリタル場合又ハ然ラレトモ日本來遊ノ意向ヲ棄テ英國ニ赴カントスルヤモ計ラレ

ス其ノ場合自分ハ何ト宣統帝ニ答フヘキカ來月出發帰國ニ先チ挨拶振指示方英国外務省ニ依頼シ置ケリ

宣統帝ハ到底帝位ニ即ク資格ナシ帝ハ學事ニ努ムルヲ欲セス頭腦アルヤモ知レサルモ帝ハ之ヲ使用セス婚礼後殊ニ然リ

日本ノ震災ニ際シ宣統帝ハ深ク之ニ同情ヲ表シ金員義捐シ度キ希望ナリシモ内帑足ラス仍リテ磁器ヲ寄附セラレタルニ日本帝室ニテハ金錢ヲ以テ之ニ代ヘ磁器ヲ宮中ニ保留セラレタルコトヲ自分ハ宣統帝ニ語リタルニ帝ハ大ニ喜ハタリ

右何等御参考迄申進ス

宣統帝ノ身上ニ關スル英人ジョンストンノ内話

続報ノ件

機密公第六四二号

(十一月二十五日接受)

大正十五年十一月二日

在英

特命全權大使男爵 松井 慶四郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

宣統帝ニ閑スル件

本件ニ關シ十月二十七日付機密公第六一九号ヲ以テ報告ノ次第アリタル處更ニ十月二十九日 R. Fleming Johnston カ吉田參事官ニ為シタル内話左ノ通

支那民國政府ト締結ノ退位条件ニ依レハ万寿山ハ依然帝室ノ財產ナリ帝ノ旧臣中ニハ帝ニシテ依然北京ニ在住セハ何時カハ帝政復古ノコトアルヘシトノ考ヨリ帝ノ北京外ニ移ルヲ好マサルモノアリ又若シ帝ニシテ小規模ノ邸ニ移ラハ延テハ自己カ生活ノ途ヲ失フニ至ルヘシトノ考ヨリ帝ノ移住ヲ好マサルモノアリ万寿山ハ廢墟トナリ居レリト迄帝ニ告クルモノアリシカ自分ハ帝ニ万寿山ニ移ランコトヲ勧メ自ラ帝ヲ同地ニ案内シタルニ帝ハ移住ニ賛成ナリシニ付若

シ馮玉祥ノ「クーデター」ナカリセハ帝ハ自発的ニ万寿山

ニ移住セラルヘカリシナリ

帝ハ自分ニ万寿山及玉泉山管理ノ全權ヲ委ネラレタルニ依
リ自分ハ自ラ万寿山ニ移リ工事（屢次行ハル修繕維持ノ

工事）ノ不正ヲ矯メ不都合ノ吏員ヲ罷免シタルカ其ノ結果

從来帝室ヨリ巨額ノ補助ヲ要シタル万寿山ノ維持ハ余程容

易トナレリ

馮玉祥ノ「クーデター」北京ニ起ルヤ万寿山ニ駐屯セル馮

玉祥ノ部將ハ之ヲ占領シタルモ其ノ後張作霖ハ之ヲ帝ニ還

付セリ

右何等御参考迄報告申進ス

日本外交文書 大正十五年 第二冊 下巻 終

付録 日本外交文書 大正十五年第二冊（上下巻）日付索引